

平成20年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体のおかげに、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。	
2 評価する領域・分野	学習指導	
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	生徒の学習習慣の確立を図り、評価の適正化と生徒への支援の充実を行う。	
4 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 授業開始時終了時の厳守、提出物の期限遵守 (2) 創意工夫のある授業を目指した公開授業の実施 (3) 成績評価の適正化と入力作業の円滑化 (4) 未修得科目のある生徒への援助	
5 取組状況・実践内容等	6 評価	
<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時3分前にチャイムを鳴らし、生徒の着席を促した。またシラバスを作成し、全生徒に配布して学習内容や評価規準を明確化した。 教育課程研究指定校事業の一環として関係学科が研究授業を実施し、それにあわせて他の教科も公開授業を実施した。 未修得科目のある生徒の指導を、放課後など多くの時間を割いて行った。 	A	
	B	
	B	
7 成果・課題	<p>授業に対する心構えをつけさせることができ、授業を大切にする姿勢ができつつある。成績不良者も昨年度より減少している。</p> <p>教員が継続して授業改善を行うことで、生徒の授業への主体的参加を促すきっかけとなっている。授業アンケートでも「分かりやすい」授業であると答える生徒が多い。</p> <p>過年度に未修得科目がある生徒は、解消の機会を次年度に与えているものの、苦手意識や負担から修得が困難である。</p> <p>「履修」と「修得」に対する意識が薄く、一部の生徒（特に就職が内定した3年生）の授業姿勢に問題がある。</p>	
8 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 引き続いて授業に向かわせる姿勢を養うために、授業規律を中心に指導していく。 授業改善のための公開授業期間を実施して、普通科・専門科を問わずお互いの授業を見あい、自分の授業に役立てていく。また生徒への授業アンケートも継続して行っていく。 過年度未修得科目をいかに修得させるかについては、修得させる機会を翌年度に与えるというのではなく各学期の指導を充実させることで該当年度で修得させる、という方針を含めて検討したい。 	

学校関係者評価

実施年月日：平成21年1月30日

【意見・要望・評価等】

- 生徒に発表をさせる、ということはとても大切なことで仲間づくり・計画性を養うことにつながっていく。そのような授業をお願いしたい。
- 先生方が頑張っている様子が感じられるので、「ものづくりは人づくり」という気持ちで継続して指導をしてほしい。

平成20年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号	27
------	----

自己評価

1 学校教育目標	<p>誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体のおかげに、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。</p> <p>(1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。</p>
2 評価する領域・分野	生徒指導
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 社会の一員としての自覚を深め、自らの行動に責任を持ち、主体的に判断し、行動することができる態度や、積極的に自己を生かす能力を育てる。 (2) 全教育活動を通して一人一人が自己の存在感や所属感を味わうことができるとともに、自他の生命を尊重し、倫理観や規範意識を体得できるよう、指導を徹底する。 (3) 信頼と愛情に基づく共感的な理解に徹し、日常のわずかな変化をとらえ、適切な対応ができるよう、全校体制による教育相談を改善・充実する。 (4) 問題行動(いじめ、暴力行為、性非行、薬物乱用、携帯電話やインターネットによる事案等)や不登校については、全教職員が危機意識をもち、共通理解のもとに未然防止・早期対応に努め指導を徹底する。 (5) 生徒の健全育成や児童虐待防止を図るために、学校・家庭・地域社会が一体となって取り組む体制づくりを推進するとともに、高等学校間や幼・小・中学校及び関係諸機関との情報の共有を図り、連携を一層強化する。</p>
4 目標の達成に必要な具体的な取組	<p>(1) 基本的な生活習慣の育成のため、マナーアップと地域との連携をはかり、全校生徒と職員によるあいさつ運動を推進し、遅刻・早退・欠席の防止のための家庭との連携に努め、交通マナーアップと交通安全指導を徹底し、四ない運動の遵守し、身だしなみ指導の充実に取り組む。 (2) 学業指導の充実のため、学習指導と生徒指導との連携をはかり、授業規律を徹底し、教科担任会による教員相互の連携に努め、個人目標の設定に取り組む。 (3) 生徒理解の徹底に努めるため、教育相談の充実と改善に努め、支援の必要な生徒への指導と援助を充実し、懇談週間(個人懇談)と家庭訪問を実施し、学年会・部顧問会・学科会との連携に取り組む。 (4) 人権尊重の精神を重視し、迷惑行為(いじめ・暴力行為)の根絶をはかり、不登校生徒への支援に対応し、防犯講話・性講話・薬物乱用防止講話を実施し、人権同和教育職員研修・生徒指導研修の実施に取り組む。 (5) 学校・家庭・地域との連携を推進し地区懇談会や中高連絡会、育友会推進委員会を通して家庭や地域の意見を取り入れ、地域と共同してボランティア活動を展開し、保護者が参加した交通安全指導を実施しMSリーダーズ活動を通して地域との融合に取り組む。</p>
5 取組状況・実践内容等	6 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の育成のため、8時25分入室完了の徹底と校門での遅刻者指導を継続的に実施した ・ 登校時のマナー向上を目的として、全職員による校門指導を実施し、特に学期毎の始業日から1週間は学科主任や学年主任が協力して登校時の生活指導にあたった。 ・ 遅刻の多い生徒や欠席の多い生徒に対し家庭との連携指導を実施した。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">B</p>

<ul style="list-style-type: none"> 交通安全と交通事故防止のため、道路交通法の改正のポイントを全校生徒に説明し、育友会総会、地区別懇談会、学年集会などの機会を利用して家庭との連携を図った。 	B
<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解の徹底のため、教科担任会を開催し生徒の様子や情報交換を実施し職員間の共通理解を図った。 	B
<ul style="list-style-type: none"> 悩み事を抱える生徒に対し、担任と教育相談担当が協力して対応した。 	C
<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重を重視し、交通安全防犯講話、性教育講話、薬物乱用防止講話を実施した。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 育友会と連携し、4月、9月、12月に保護者とMSリーダーズ、職員が協力して登校指導と交通安全の啓発活動を行った。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 毎月2回、MSリーダーズ(風紀委員)による交通安全啓発活動を行った。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 地域と協力して、十万石祭りでの非行防止活動や大垣駅での自転車盗難防止活動、年末年始地域安全運動に参加した。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 学校周辺での巡回指導や養老鉄道での駅指導を実施した。 	B

7 成果 ・ 課題	<p>《成果》</p> <p>8時25分入室完了の徹底と校門での遅刻者指導を連動して実施することにより遅刻者数が激減した。</p> <p>全職員による登校時での校門指導を実施することにより身だしなみ指導やあいさつ指導の共通理解を図ることができた。</p> <p>学科主任や学年主任による登校指導を導入し、学科による生徒指導の協力が得られるようになった。</p> <p>交通安全講話や性教育講話、薬物乱用防止講話を実施することにより交通安全意識や人権尊重の精神が高揚した。</p> <p>育友会役員と連携して交通安全指導を実施し交通安全啓発に寄与することができた。</p> <p>地域での非行防止活動や地域安全活動に参加協力することにより本校教育活動に対する理解と地域連携の必要性を感じ取ることができた。</p> <p>《課題》</p> <p>1学期では家庭と協力して交通安全に対する啓発が功を奏し交通事故報告件数が激減したが、交通マナーをいつも守っている生徒が昨年に比べて12.4%減少した。</p> <p>進んであいさつができる生徒が昨年の80.9%から82.6%に若干は増えているが、できるだけ100%に近づけていきたい。</p> <p>身だしなみをきちんとしようとする意識は全校平均で75.5%に対し3年生では71.5%で学年が上がるに従って減少する傾向にある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>
--------------------	--	-----------------------------------

<p>8 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全への啓発活動を重視し、交通安全啓発運動の機会を増やし、交通マナー意識の向上を図る。 校門指導や授業、全校集会などあらゆる機会を通してあいさつ運動を推進し、生徒のマナーアップの向上を図る。 身だしなみ指導の中心を学級から学年に移行し、全職員による身だしなみ指導と平生での身だしなみ指導を充実させる。 教科担任会を教員間の情報交換と共通理解の場とし、問題行動などの早期発見と共通行動の場として位置づける。
--

学校関係者評価

実施年月日：平成21年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬物に対して大変心配しているので、講話を実施していて大変よいことだと思う。来年度以降も続けてほしい。 交通安全指導が大変重要となってきている。近隣の街道で危険な個所があり、注意を喚起してほしい。 きめ細かい指導がなされている。育友会と協力して生徒を指導してほしい。 生徒のあいさつがもっとあるとよい。生徒会があいさつ運動を行っているようすばらしい。
--

平成20年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上で、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。		
2 評価する領域・分野	進路指導		
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	生徒の発達段階に応じたキャリア教育の推進(自己の能力・適性の理解促進、職業観・勤労観の深化、進路決定能力の育成)		
4 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 2年生のインターンシップに加えて、1年生の工場見学を新たに実施 (2) 自己理解のための検査を見直し、レディネステストをYG性格検査に変更して実施 (3) 問題集による一般常識指導に加え、新たに3年生で作文・小論文指導を実施 (4) 地域産業展の継続(3年目)、進学ガイダンス、進路講話(1, 2, 3学年ごと)の開催		
5 取組状況・実践内容等	6 評価		
・「班別企業リサーチ」として、1年生全員に対し、班別に夏期休業中に地元企業を訪問させ、工場の見学をさせた。 ・2年生でYG性格検査、3年生でクレペリン検査を新たに実施した。 ・3年生に対し作文・小論文教材を使った指導を就職、進学に分けて全員実施した。 ・大垣地域活性化研究会会員企業の協力を得て、企業の活動内容を紹介する地域産業展を7月と11月の文化祭中に開催した。 ・大学・専門学校等の協力を得て、進学ガイダンスを7月と12月に実施。 ・各学年に対し、LHRの時間を利用した進路講話・ガイダンスを2回ずつ実施。	A B B A B B		
7 成果・課題	班別企業リサーチを通し、早期から企業就職への意識付けを行うことができた。職員による事前指導、当日の見届けについて考慮・工夫が必要。 比較的企業でよく実施されているYG性格検査によって、本人の性格を確認するよい資料が得られたが、就職試験対策としては見直しが必要。 作文・小論文指導は生徒の作文能力向上に効果はあったが、今回の教材は字数的にはもの足りなかった。 会話能力や学力不足等が指摘され、就職試験不合格者が昨年より増加した。	総合評価 A B C D	
8 来年度に向けての改善方策案	・インターンシップや班別企業リサーチの準備を早めに計画するとともに、効果的な担当職員の割当を行うとともに、事前指導のマニュアルや資料を整備する。 ・適性検査や作文・小論文教材の仕様を見直し、事前指導を含め、効果的に実施できるよう計画する。 ・いっそうの学習喚起を行い基礎学力をつけさせるとともに、日頃の職員との会話や発表の機会を通して、コミュニケーション能力をつけさせていく。		

学校関係者評価

実施年月日：平成21年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・他校と比較すると大工生は資格をたくさん持っており、ものづくりに対する熱意がある。日本の産業を支えているのはものづくりなので、これからも充実した指導をしてほしい。
- ・企業とタイアップしている工夫は素晴らしい。インターンシップなどさらに充実させてほしい。

平成20年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号	27
------	----

自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体のおかげに、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。
2 評価する領域・分野	工業
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 教科指導を通して職業観・勤労観を育成し、心豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる。 (2) 企業との連携により地域産業のニーズに応じた実践力と協調性のある人材を育成する。 (3) 出前授業やものづくりワークショップ等の開催を通して、生徒のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域や中学校へ工業教育をPRする。 (4) 授業を通して安全教育を推進し、事故災害の未然防止を図る。
4 目標の達成に必要な具体的な取組	
(1) 地域産業の担い手育成プロジェクト(文科省、経産省、国交省、農水省の連携事業) (2) 教育課程研究指定校事業(文部科学省教育課程研究センターの指定事業) (3) 大垣工業高校PR事業等の企画(県立学校リーダーズプラン推進事業を含む) (4) 本校への依頼企画	
5 取組状況・実践内容等	6 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・工業教育における「ものづくり」に関する知識や技術を学び、地域産業のニーズに応じた実践力のある人材を育成するために、高度熟練技能者による「ものづくり道場」、岐阜県国際たくみアカデミーでの体験研修、外部講師による座学、実習、岐阜県金型工業組合による教材開発と授業、企業での実習、企業での就労体験などを実施している。 ・ものづくりに必要な基礎・基本とは何かを探求し、教科指導の中で職業観、勤労観を育み、創造的な能力と実践的な態度を養うための指導法を研究し、指導方法の工夫改善を取り入れた研究授業を随時実施し、その効果を検証した。 ・7月19・20日に「大工Day」と銘打って、大垣市内3ヶ所の商業施設で、各学科のブースを設け、課題研究作品の展示やものづくりなどのワークショップ的(体験)な活動を行った。西濃地区の学校の授業の一環として、本校の教員や生徒が講師となって授業を行う「出前授業」を、10小中特別支援学校からの希望により16講座実施した。 ・7月から8月にかけて、イオン大垣を会場にして、大垣市NPO法人との連携によるマイコンカーの製作とコンテストを実施した。8月22日本校豊栄館にて、中学生創造ロボットコンテスト西濃地区大会への支援を行った。9月13日ヤナゲン本店にて、4学科が大垣市発明工夫展での技術作品の実演披露を行った。その他、大垣市市制90周年記念事業「大垣ルネッサンス先賢フェスティバル」への協力、大野町の「ふれあい2008大野まつり」や安八町の「安八ふれあいまつり」に参加し、各学科のものづくりに関する内容を企画し、体験できる催しを実施した。 	A B A A
7 成果	企業による実践的なものづくりに関する学習ができ、国家試験である各種技能士資格を取得する意欲的な生徒が増えた。 研究対象関係学科を中心に「生徒自ら思考し、反応できる授業」を目指して取り組むことにより、指導法の工夫改善を図った授業が展開できるよう
総合評価 A B C D	

課題	<p>になった。 地域の住民や企業及び小中学校生とその保護者に、大垣工業高校のものづくりが理解され、身近に感じられるという意見を聞いた。 各職員の各種取り組みに対する姿勢に大きな温度差が見られ、学校全体の活動として実施しきれなかった。</p>	
<p>8 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての生徒に実践力を向上させる取り組みを充実させていくとともに、意欲的な生徒に対してはさらに高度な能力を身に付けさせる方策についても充実していく。 ・地域や企業と連携する企画をさらに充実させ、より多くの人たちに工業教育への理解を深めてもらうとともに、本校がものづくり人材育成の場として地域の積極的な後援を得る中で、ものづくりに強い興味・関心をもつ優秀な人材が集まるような方策を図っていく。 		

学校関係者評価

実施年月日：平成21年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・産業デザイン科がなくなるのが寂しい。女子が入りやすい学校にしてほしい。地域とのかかわりも考えて学校を運営してほしい。

平成20年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

自己評価

1 学校教育目標	<p>誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体のおかげに、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。</p> <p>(1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。</p>
2 評価する領域・分野	特別活動
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 豊かな人間性や自ら学び考える力などの「生きる力」や「活力」ある生徒の育成に努める。リーダーの養成</p> <p>(2) 生徒が自発的、自治的な活動を展開し、集団や社会の一員としての自覚を深め、自己を生かす能力が育つよう指導・援助を行う。ボランティア精神の育成</p> <p>(3) ホームルーム活動を中心とした特別活動全般を通して、学校生活への適応及び円滑な人間関係の形成を図るとともに、人間としての在り方・生き方に関する指導を充実する。ホームルーム活動の活性化</p>
4 目標の達成に必要な具体的な取組	
<p>生徒会</p> <p>(1) 生徒会活動への積極的な参加・協力を図るため、生徒会執行委員会・議会・各種委員会等の活動が円滑に行えるよう指導を行う。</p> <p>(2) 各種生徒会行事への積極的な参加を促し、生徒の学校・学級への所属感及び自主的・実践的な態度を育てる。</p> <p>特活</p> <p>(1) ホームルーム活動を通じて学級の一員としての自覚を深め、お互いを高め合う人間関係を形成する。</p> <p>(2) 部活動への積極的な参加を促し、達成感及び自己成就感を味わわせることで、自己を生かす能力を育てる。</p>	
5 取組状況・実践内容等	6 評価
<p>生徒会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週木曜日に定例の執行部会を開き、連絡の徹底及び、生徒の自主的な活動を促した。 ・毎週、火曜日から木曜日を「あいさつ運動」の日として、特活部職員・執行部員各クラス議員の当番で、校門で登校する生徒にあいさつを行った。 ・各種行事に執行部が積極的に関わるよう、事前のマニュアル作り・当日の指導等を行った。 ・文化祭を「特別限定公開」とし、安全な行事運営に配慮しながら、保護者・地域の方々への学校公開及び、小・中学生へのアピールを行うための企画・運営をした。 ・生徒会掲示板(東舎下)や「大工海」(広報誌)を利用し、全校生徒の生徒会活動への興味や関心を喚起するように工夫した。 <p>特活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援訪問のHR活動参観の機会に、担任の先生方や議員の生徒に対し、HR活動の研修を行った。 ・毎月の部活動実施計画・実施報告の速やかな配布・回収を行った。 ・部活動の成果を一括で管理し、各部署で利用できるような形態を工夫した。 ・部活動の表彰伝達・壮行会を執行部や応援委員の生徒の手で行うことで、生徒の 	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">A</p>

	<p>リーダーとしての意識を高めた。また、各部の努力を他の生徒にも知ってもらうことで、部活動への積極的な取り組みを促した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部室・ウォータークーラーの使用方法について、顧問を通じて生徒への指導を行った。 ・転部を申し出る1年生の生徒に、部活動への取り組みについて指導を行い、部活動への参加意欲を喚起した。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>
<p>7 成 果 ・ 課 題</p>	<p>文化祭では、来場した多くの保護者や地域の方から、学校案内係をはじめとして生徒の活動に対し、お褒めの言葉をいただいた。</p> <p>執行部の生徒達に、学校のリーダーとしての自覚を促したことで、積極的な活動ができるようになった。</p> <p>毎年公開のような形になっている文化祭のあり方について、学校全体で検討する必要がある。</p> <p>1年生が、運動系の部活動にあまり積極的に参加しなくなる傾向について、学校全体で、全員参加の是非も含め、検討する必要がある。</p> <p>執行部員は、特活部の職員が直接声をかけて、生徒会に入れているような状況がずっと続いているので、生徒の中から自主的に生徒会に参加しようという意識を高める。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
	<p>8 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事に対して、全職員の協力体制を作る（書類の締め切り、表彰の円滑な連絡、行事への生徒参加の働きかけ等）。 ・行事検討委員会の復活（企画委員会では、時間が不十分）。 ・インターアクト年次大会の円滑な運営に向けて、各クラスや部でボランティアへの積極的な参加を呼びかける。 	

学校関係者評価

実施年月日：平成21年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大工生は地域にも参加していてありがたい。太鼓部などの活動がこれからもなされていくようお願いしたい。 ・全国大会にいく選手を育成しているようすばらしい。 ・文化祭が興味深かった。教師・生徒が一丸となって取り組んでいる姿が伝わってきた。

平成20年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体のおかげに、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。		
2 評価する領域・分野	環境・管理		
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	明るく清潔な学校生活を樹立していくために、全校生徒一人ひとりが問題意識を持ち責任ある行動がとれるよう推進する。 公共物を大切にすることを育成するとともに安全管理を徹底する。		
4 目標の達成に必要な具体的な取組	<p>(1) 生徒一人ひとりに「汚さない」という強い意識を持たせ、日常の清掃と分別回収の徹底を図り、校内美化とリサイクル活動の推進に努める。</p> <p>(2) 防災訓練を体験する中で、自衛消防組織等の危機体制の機能を確認するとともに命の大切さを自覚させる。また、消防署等と連携を密にして訓練・研修の充実を図る。</p> <p>(3) 公共物を大切にすることを育成するとともに環境整備の徹底を図る。</p>		
5 取組状況・実践内容等	6 評価		
<ul style="list-style-type: none"> ・早朝と放課後の清掃活動及び各学期末の大掃除を行った。また「ゴミゼロ活動」として、職員が清掃活動を率先して行い環境を整備した。 ・一学期の終わりと二学期の終わりに防災訓練、夏休み明けには防災の日にちなんで避難参集訓練を行った。また7月に救急法講習会を行い、災害時への迅速な対応を学んだ。 ・事務部と協力し、危険箇所の改善に取り組んだ。 	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>		
7 成果・課題	<p>環境美化への意識が高まり、校内外のゴミが減少した。放課後の一斉掃除も定着し、職員・生徒が協力して環境管理を行うことができた。</p> <p>防災訓練を繰り返すことにより、避難経路がしっかり確認できた。救急法講習会では、AEDの扱い方を多くの先生方に知っていただけた。</p> <p>老朽化した外フェンスや通用口の確認・修繕を行うことができた。</p> <p>ゴミは減少したものの「ポイ捨て」をする者が少なくない。環境に対する意識改革が急務である。</p> <p>防災訓練の中の煙体験は時間も短く内容が乏しいと感じている。他の消火器訓練・避難袋訓練のように内容を精選し、変えていかなければならない。</p> <p>校内にある所在不明物品の整理整頓が必要である。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>	
8 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会の活動を活発にし、意識の高揚を図る。また、全校生徒の意識高揚に繋がるような新しい取り組みが必要であると考えている。(例：環境新聞の発行・環境美化週間の実施など) ・防災訓練の内容を再検討し、全職員・生徒が災害時に迅速に行動できるよう「学校安全マニュアル」を見直し、防災に対する意識を更に高められるよう様々な働きかけをしていきたい。 ・定期的に校内の巡視・検査を行い、事務部と連携を密にし環境管理を徹底する。 		

学校関係者評価

実施年月日：平成21年1月30日

【意見・要望・評価等】

・四川大地震の教訓を生かして、これからも耐震工事や避難訓練を続けてほしい。

平成20年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上に、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。	
2 評価する領域・分野	健康・安全	
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	生徒の生活習慣や心身の健康状態を的確に把握し、自主的に健康を管理・改善できる能力を育成する。	
4 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 生活習慣の確立と体力の向上 (2) 健康・安全に関する教育推進と事故の未然防止 (3) 体育施設等の充実と管理点検 (4) 集団行動の徹底 (5) 職員厚生の充実	
5 取組状況・実践内容等	6 評価	
(1) 生徒一人一人の能力、適正等に応じた指導内容を重点化し(選択制)、生活習慣の確立を図った。	B	
(2) 緊急事態に備え、教職員、部活動生徒に対し救急法講習会を実施した。	A	
(3) 体育施設等を定期的に点検した。部室や器具庫の鍵の管理を徹底した。	A	
(4) 学校行事や全校集会等において、集団行動の基本様式を指導した。	B	
(5) 定期考査中に職員研修会を実施した。	B	
7 成果・課題	学校行事や全校集会等において、時間よりも早く集合・整列しスムーズに行事を進行することができた。 体育施設、運動部部室、更衣室等を定期的に点検し、事務室との連携により修理・補修することができた。部室の鍵の管理も各部部員に徹底できた。 新体力テストの結果により、能力(得点)の高い生徒と低い生徒の差が著しいことが分かった。今後も部活動や授業において地道に指導していく必要があると思われる。 職員研修会を1回しか実施することができなかった。	総合評価 A B C D
8 来年度に向けての改善方策案	・体力を向上させ、新体力テストにおいてレベルアップを図るために、カリキュラムの見直し、授業内容の検討を続けていきたい。 ・集団行動を本年度以上に徹底するため、全職員で取り組めるような体制作りを考えたい。 ・安全指導として救急法講習会を今後も継続して行いたい。 ・部活動や施設の安全点検表を定期的に提出するようにし、事故の未然防止に努めたい。 ・職員の厚生活動を充実させ、親睦と活性化を図りたい。(年2回の研修会)	

学校関係者評価

実施年月日：平成21年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・学校保健委員会の報告で、5月病が少なくなっていることはよいことだ。これからも支援して欲しい。
- ・インフルエンザが今年は流行している。健康指導を継続してほしい。

平成20年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号	27
------	----

自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上に、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。
2 評価する領域・分野	渉外
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	育友会員(保護者)に、我が子の学校での様子や実態について正しい認識を持ってもらい、学校に対して積極的な協力が得られるように努める。 家庭や地域での生徒の健全な育成に努める。
4 目標の達成に必要な具体的な取組	
(1) 育友会への参加を意味あるものとし、会員の出席が増加するように工夫する。 (2) 学校行事への参加の在り方を工夫し、各種委員会の活動を積極的にする。 (3) 学校行事などに、育友会員にできるだけ参加していただく。	
5 取組状況・実践内容等	6 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区懇談会(事前の打合せ、反省会を含めて)昨年度までの資料を見直し、より多くの出席が得られるように働きかけをした。 ・ 学校行事へ参加の呼びかけを文書の配布と携帯メールの発信の両方で行った。 ・ 育友会による文化祭バザーにおいて、生徒の協力体制を前面にした取り組みをした。 ・ 事故発生時の適切な処置および全高P連賠償責任補償制度(生徒賠償責任保険、PTA管理者賠償責任保険)の全員加入をした。 	A B A B
7 成果・課題	総合評価 A B C D
8 来年度に向けての改善方策案	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会や文化祭には多くの出席が得られるが、年度当初の育友会総会の出席率が減少してきている。学校の特色を生かした生徒の活動を総会の一部で公開できないか企画・検討したい。 ・ 運動会の観戦の案内に携帯メールを利用したところ、昨年より多く出席があった。このような保護者への広報の方法を工夫したい。 	

学校関係者評価

実施年月日：平成21年1月30日

【意見・要望・評価等】

・ 文化祭に保護者が多くて驚いた。学校を保護者に見てもらうことは大変よいことである。これからもできるだけ継続してほしい。

平成20年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上に、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。
2 評価する領域・分野	図書
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	心豊かな人間性の育成をめざし、読書環境の整備につとめ読書指導にあたるとともに、学習・情報センタ-として図書館の施設・設備の活用化ならびに情報化社会に対応した図書館教育を推進する。
4 目標の達成に必要な具体的な取組	
<p>(1) 本と親しむ機会をつくり、読書の楽しさ、すばらしさを体験させ、読書の習慣化を図るため、国語科と協力して校内読書感想文コンクールを実施する。</p> <p>(2) 開かれた利用しやすい魅力ある図書館づくりをめざし、図書館管理システムやインターネットを利用した調べ学習など、教育活動の活性化を図る。</p> <p>(3) 教育メディアのマルチメディア化に対応した図書資料や機器の充実に努める。</p>	
5 取組状況・実践内容等	6 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生の図書館オリエンテーションを国語科と協力して実施し図書館利用を促進する。 ・ 全職員ならびに国語科の協力のもと、全校生徒対象に読書感想文コンクールに取り組む。その指導の一環として、朝読書にも取り組む。 ・ 視聴覚教育の推進を図り、視聴覚室の利用、教材・機器の管理に努める。 	<p>B</p> <p>A</p> <p>C</p>
7 成果・課題	総合評価 A B C D
8 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書感想文用の図書を充実するとともに、感想文用の図書を登録制から自主的に借りに来る方式に変更して、生徒の読書意欲の向上をはかり、さらに図書館利用を促進する ・ 視聴覚教室の整備・機器の充実ならびに利用の活性化をはかる。 	

学校関係者評価

実施年月日：平成21年1月30日

【意見・要望・評価等】

・ 特になし。